

# 神緑会ニュースレター

第2巻 第2号  
発行日 2010年12月1日



目次	ページ
大阪神緑会発足50周年を迎えて	2
神緑会の新体制と各委員会委員名簿	3,4
第5回ホームカミングデイが開催されました	5
大倉山祭2010年報告	6
大倉山祭医療シンポジウム2010	7
平成22年度学生海外派遣報告	8,9
神緑会学内支部活性化活動について	10
神緑会若手会員活動の活性化のために	11
図書館から卒業生への貸し出しサービスのご紹介	11
平成8年卒同窓会開催のお知らせ 編集後記	12

# 大阪神緑会発足50周年を迎えて

支部長・上辻 浩夫

大阪神緑会（神緑会大阪支部）は、本年度で発足50周年を迎えております。10月30日現在、会員数は519名を数え以下のような同窓会活動を行っております。

現在行われている事業、行事は会員名簿の発行（隔年）、大阪神緑会会報の発行、総会並びに学術講演会、激励会、ゴルフコンペ（各年1回）の開催等です。激励会については加えてみますと、「行政職の課長以上、国公立病院院長、大学教授及び地区医師会会長に該当するか、またはそれに準じる会員が生まれた場合、栄誉をたたえ且つ激励をするために会員全員に呼びかけて、激励会を開催する」とした慶弔規定に基づいて行われているもので、対象となった会員は延べ50名を数えます。

10月30日ホテルグランビアにおいて、「大阪神緑会50周年記念祝賀会並びに激励会」を神緑会理事長・前田盛先生、医学部長・高井義美先生を来賓にお迎えし、総勢72名の参加を得て執り行ないました。激励会では、大阪府医師会会長・伯井俊明先生（44年卒）、大阪府医師会理事・斎田幸次先生（48年卒）、同・中尾正俊先生（54年卒）、同・加納康至先生（55年卒）、近畿大学医学部外科教授・竹山宣典先生（56年卒）、近畿大学医学部病理学講座教授・伊藤彰彦先生（63年卒）、淀川キリスト教病院院長・椋棒正昌先生（46年卒）、済生会中津病院院長・川嶋成乃亮先生（52年卒）の8名が激励を受けられ、榮に浴されております。当日はお二人の来賓をはじめ、OBである元関西医科大学教授・斉藤國彦先生や元近畿大学教授・大柳治正先生も遠方より駆けつけて下さったこと、被激励会員の多かったこともあり、3時間半に及ぶ長丁場にもかかわらず、あちこちの談笑の輪は絶えることなく盛り上がっておりました。

大阪神緑会は、1960年、坂上明先生（24年卒）を初代会長に会員数40名を以て発足しております。1970年代に就任された内田久雄会長（26年卒）により、同窓会活動に必要な基盤が整備され、1981年に事務局を愛仁会本部におくことで、本格的に同窓会活動が始まり、以降、冒頭に述べたような事業、行事が生み出され今日に引き継がれております。この間、大阪府下では1969年に関西医科大学教授に就任された斉藤國彦先生をはじめ、医療現場はもちろんのこと、医学教育、行政、医師会活動などの分野で重要な役割を担ってこられた会員は多く、本年4月には伯井俊明先生が大阪府医師会会長に就



50周年記念祝賀会並びに激励会後の記念写真

任されております。以上、本部からの要請で、50周年を迎えた大阪神緑会について知るところを足早に紹介させていただきました。

神戸大学医学部は、毎年優秀な人材を世に送り出し、ことに2007年、2008年には厳しい競争の中、グローバルCOEプログラムに採択され、その躍進ぶりは目を見張るものがあります。また、大阪神緑会においても、府下で要職に就き活躍される会員も年々増え、大阪府医師会会長をも輩出しております。「どこを向いても阪大、京大、高槻といった環境の中で寂しい思いをした。」と言う先人の言葉を思い出し、今昔の感を禁じえません。母校並びに神緑会組織の更なる発展と会員の皆様のご多幸を祈念し稿を終わります。

## 神緑会の新体制と各委員会委員名簿

(任期：平成22年6月26日～平成24年6月25日)

社団法人神緑会の一般社団法人への移行を前提とした役員選挙が行われ、6月20日の定例総会で、新体制が発足しました。その陣容は、前号で紹介しましたので、今回は委員会名簿を紹介します。委員会活動も活発にして、総合的活動に繋げたいと思います。

### 総務委員会（三役会）

	氏 名
委員長（理事長）	前田 盛（46）
委員（副理事長）	大洞 慶郎（46）
同 上	山崎 峰夫（56）
同 上	宮本 正喜（59）
委員（常務理事）	田中 邦彦（42）
（顧問）	小島 正守（28）
同 上	下奥 仁（29）
同 上	荘田 静（33）
同 上	澤木 政光（34）
同 上	松原 嘉雄（34）
同 上	本間 道朗（36）
同 上	菱田 繁（38）

### 学術委員会

	氏 名
委員長	田中 邦彦（42）
委員	大竹 邦夫（44）
同 上	千原 和夫（45）
同 上	藤盛 孝博（49）
同 上	宮本 正喜（59）
同 上	高井 義美（49）
同 上	杉村 和朗（52）

### 経理委員会

	氏 名
委員長	大洞 慶郎（46）
委員	田中 邦彦（42）
同 上	恵美裕一郎（43）
同 上	伊賀 文計（46）
同 上	山邊 裕（52）
同 上	西村 善博（58）

### 諸規定委員会

	氏 名
委員長	恵美裕一郎（43）
委員	田中 邦彦（42）
同 上	大竹 邦夫（44）
同 上	大洞 慶郎（46）
同 上	奥町富久丸（48）

### 名簿編集委員会

	氏 名
委員長	大竹 邦夫（44）
委員	田中 邦彦（42）
同 上	吉田 優（04）

## 将来計画委員会

	氏名
委員長	吉田 優 (04)
委員	坂井 昌武 (27)
同上	田中 邦彦 (42)
同上	大竹 邦夫 (44)
同上	大洞 慶郎 (46)
同上	石田 正矩 (48)
同上	中野 康治 (52)
同上	山崎 峰夫 (56)
同上	西村 善博 (58)
同上	花川 公麿 (58)
同上	宮本 正喜 (59)
同上	力武 良行 (04)
同上	田中 擴址 (13)

※永井公尚先生 (37)、小林和幸先生 (09) はオブザーバーとして参加

## 学術・広報誌編集委員会

	氏名
委員長	前田 盛 (46)
委員	梶田 明義 (34)
同上	久野 克也 (48)
同上	村尾 真一 (50)
同上	山崎 峰夫 (56)
同上	三浦 靖史 (01)
同上	吉田 優 (04)

## 将来計画委員会委員長として

吉田 優 (H4年卒)



この度、新たに設立された将来計画委員会の委員長を拝命いたしました平成4年卒の吉田です。過去、2期に亘って副理事長として神緑会活動に携わってまいりました。その中で、現在の神緑会が解決すべき沢山の問題に直面いたしました。特に若い会員においては、神緑会の活動への関心が薄く問題となっています。これまでに、企画広報委員会委員長として、年3回のニュースレターの作成や、学内支部の名簿の整理、学年同窓会の奨励、大倉山祭への参加、学内を中心とした広報に努めてまいりました。

また、学内支部の活性化が必要であるという認識により、学内の神緑会有志が集まって、神緑会活性化のために話し合いが行われています。平成22年6月26日の定例総会では、「神緑会活性化のための討論会」を行いました。学内から山崎先生 (56)、ならびに若手代表として、力武先生 (04) に、それぞれの立場からの問題点を提起していただきました。また、学外からは、京都大学から千葉先生 (49)、慶応大学から佐谷先生 (56) をお招きして、それぞれの大学における同窓会活動内容をお伺いしました。卒後研修制度が始まり、大学離れが進む中、神戸大学の卒業生をしっかりとフォローする組織として、神緑会が機能していく必要があります。これらの背景をうけ、このため、神緑会の将来構想を検討する目的で、企画広報委員会の名称を変更し、活性化委員会のメンバー(平成22年3月13日開催の理事・評議員会で承認、設置された神緑会活性化のための検討委員会メンバー10人)を入れて新たな委員会(将来計画委員会)を発足させました。

今後、本委員会で、神緑会の将来計画をしっかりと議論し、神緑会を活性化させたいと考えております。ご意見、ご助言などありましたら、お気軽に神緑会事務局まで、よろしくお願いいたします。

# 第5回 ホームカミングデイが 開催されました

神戸大学医学部は昭和30年卒、昭和40年卒、昭和50年卒、昭和60年卒、平成7年卒、平成17年卒並びに平成22年に医学部医学科を卒業した同窓生を招待し、第5回神戸大学医学部医学科ホームカミングデイが10月30日（土）に開催されました。ホームカミングデイは、卒業生を招待して現任教職員・学生と交流することにより、神戸大学と卒業生の間の絆を深める催しで、平成19年にはじめられた催しです。開催直前の台風到来で悪天候による開催中止が危ぶまれましたが、幸いにも台風の進路が変わり、無事開催することができました。参加者は同窓生と旧交を温め、恩師と歓談し、母校で学んだ往時を懐かしみました。



神緑会館前での集合写真

## プログラム

### ◆学部長挨拶

医学部長 高井義美

### ◆現執行部の紹介

### ◆講演

「愛仁会千船病院と神戸大学医学部との連携」

講師 田守 義和 戦略的客員教授（愛仁会 千船病院）  
司会 力武 良行 准教授



高井義美学部長の挨拶

「保健学研究科と医学研究科との連携」

講師 木戸 良明 戦略的客員教授（保健学研究科）  
司会 堀 裕一 特命准教授



講演会風景

### ◆記念集合写真／キャンパスツアー

### ◆講演

「兵庫県立がんセンターと神戸大学医学部との連携」

講師 西村隆一郎 戦略的客員教授  
（兵庫県立がんセンター）

司会 山崎 峰夫 特命教授



講演会後の懇親会

「神戸薬科大学と神戸大学医学部との連携」

講師 江本 憲昭 戦略的客員教授（神戸薬科大学）  
司会 梶 博史 特命准教授

## 2010年度大倉山祭に ご協力・ご寄付ありがとうございました。

2010年度大倉山祭実行委員長 梶原 彰文（医学部4年生）

（大倉山祭2010 本祭 10月31日 @大倉山公園・神緑会館）

本年度の大倉山祭は、「AKB∞」をテーマとし、本祭においては3つの新しい試みを行いました。

1つ目は、毎年恒例の吉本芸人によるお笑いライブを12時開始として、多くの方に見て頂けるようにしたことです。2つ目は、委員企画である健康茶のブース企画において席20ほどの休憩所を作り、さらに無料で健康茶の試飲をして頂けるようにしました。そして3つ目ですが、より集客力の高い企画をと考え、関西の人気番組「ちちんぷいぷい」のアナウンサー西靖さんのトークライブを企画したことです。

当日は昼から雨天となってしまいましたが、舞台の上に臨時テントを建てて対応し、なんとか最後まで大倉山公園で行うことができました。10時から1時間程度行われました「西靖トークライブ」は、開場30分前から一般の方の行列ができ、会場では立ち見の方でいっぱいになる大盛況でした。また、各部活がステージ上で出し物をして戦う「部活総選挙」では、どの部活も例年よりもかなりクオリティが高く、白熱したものとなりました。さらに、吉本芸人（天竺鼠・和牛）によるお笑いライブは、雨にも関わらずたくさんの方にお越し頂き、楽しんで頂きました。他にも、音楽ライブ・ブース企画・ダンスサークルによる公演など、雨に負けないような盛りだくさんの内容で、みなさんと楽しい時間を共有させて頂くことができました。（ちなみに、西靖トークライブの様子が、後日ちちんぷいぷいの番組内にて、短い時間ではありますが放映されました。）

最後になりましたが、神緑会の先生方のご協力・ご寄付がなければ、このように充実した大倉山祭を行うことは決してできませんでした。神緑会の先生方、心より御礼申し上げます。



大倉山祭実行委員会のメンバー

# 大倉山祭医療シンポジウム2010

## “生活習慣病の驚異”を開催しました。

シンポジウム実行委員長 森 達男（医学部4年生）

11月3日（水・祝日）に、神緑会館多目的ホールにて、大倉山祭医療シンポジウムを開催致しました。

大倉山祭医療シンポジウムは、一般の方々に医学に親しみをを持って頂くことを目的として毎年開催致しております。今年は、多くの現代人に関係がある「生活習慣病」をテーマとして取り上げ、講師としてメタボリックシンドロームに深い見識をお持ちで本学循環器内科学分野教授の平田健一先生と、妊婦栄養や母体組成測定に関する研究でご活躍されている兵庫県立柏原病院副院長・産婦人科部長の上田康夫先生をお招きしました。

まず先生方のご講演の前座として医学科4年生の王 志超さんが糖尿病に関しての講演を行いました。この講演は、王さんが今年の春から準備を続けた成果があり、大変内容が濃く、かつ良くまとまった素晴らしいものとなりました。アンケートの回答の中には、「糖尿病の基本的な事がピンポイントで良くまとめられていて、とてもわかりやすかった。」「堂々としていてよかった。」といった意見が多く見られました。質疑応答の際には質問者さんと王さんとの間に活発な議論が生じ、あまりに白熱して平田先生が「そのご質問はぜひ私の講演のときに…」と間に入り、笑いを誘う場面もありました。

続いて上田先生が、“母体の貧しい栄養状態が胎児の生活習慣病リスクを上げる”というテーマで、ユニークな角度から生活習慣病についてご講演して下さいました。先生がお話しされたDOHaD説（Developmental Origins of Health and Disease）とは、「健康および成人病の素因は胎芽、胎児、乳児期の環境に影響を受けて形成され、



講演中の上田康夫先生

出生後は変化せず、その素因と環境の相互作用で健康および疾患が形成される」(Gluckman & Hanson) という学説です。上田先生はそれを夢野久作の奇書「ドグラ・マグラ」内で記述されている「胎児の夢」に重ね、“胎内で飢餓の世界の夢を見ている胎児は、出生後の栄養があふれた環境とのミスマッチで生活習慣病を発症する”と、お話されました。またそういった観点から若い女性の“痩せ指向”の問題点、及び“小さく産んで大きく育てる”という妊婦教育の問題点についても触れられました。アンケート結果には「この話をもっと広く話して頂き、日本人女性のやせを防止できればと感じた。」「出産をする前に今日のお話が聞けたら…と、悔んでいる。」などのご感想が見られ、皆様にこのご講演のテーマの重要性が十分に伝わったものと思います。



講演中の平田健一先生

最後に、平田先生が「生活習慣病の脅威：生活習慣病で突然死しないために」というテーマで、生活習慣病の危険性と、予防の重要性についてご講演されました。先生のご講演は、スライドと先生の丁寧なご説明により大変分かりやすくなっており、多くの皆様がアンケートに「生活習慣を考えて生活したい。」「日常の生活に今日のお話を参考にしていきたい。」「子どもの食育の必要性も改めて考えさせられた。」などのご感想を書かれていました。また冠動脈内の粥腫の図や、冠動脈造影、ステント治療の動画などは、一般の皆様方にとって大変関心を引くもので、それらの映像に対する驚きのご感想も寄せられていました。質疑応答の際には会場から多くのご質問が寄せられ、皆様の生活習慣病に対する関心の高さが窺われました。中にはご自身のコレステロール値検査結果の解釈についてのご質問などもあり、平田先生が一人一人に対して丁寧にお答えになっていました。

こうして無事、大倉山祭医療シンポジウム2010“生活習慣病の脅威”は幕を閉じました。

参加された皆様には、確実に生活習慣病について興味を深めて頂けたと思います。その点で、本シンポジウムは大成功に終わったと言えます。しかし来年度への課題として、どのように集客数を上げるかという案件が残りました。

今年度は広報活動として、読売新聞での記事の掲載、神戸新聞での紹介、県内病院でのポスター掲示、地下鉄大倉山駅・市立中央図書館でのポスター掲示、近隣へのビラ配布及びポスター掲示、ホームページでの紹介、と多くの手段をとりましたが、集客数は60名程度と、少し残念な結果となりました。より効果的な広報の方法を検討する必要があります。

以上をもちまして、大倉山祭医療シンポジウム2010のご報告とさせていただきます。最後になりましたが、本シンポジウムの開催にあたりご協力して下さいました神緑会の皆様方に、心より御礼申し上げます。来年度シンポジウムの際も、何とぞご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



# 平成22年度学生海外派遣報告

## マレーシアでの実習を終えて

6回生 津島ゆかり・中野 淳子

平成22年4月5日から1ヶ月間、私たちはマレーシアの首都クアラルンプールから車で約1時間離れたヌグリ・スンビラン州の州都、スレンバンにあるトゥアंक・ジャアファ病院で実習をする機会をいただきました。トゥアंक・ジャアファ病院は、脳神経外科以外の診療科が揃った大きな政府系の病院で、毎日大勢の患者さんが訪れていました。病院のすぐ横には国際医療大学のキャンパスがあり、4年生以上の医学生やコメディカルの学生が病院で実習しています。私たちは、内科、産婦人科、小児科を選択し、国際医療大学の学生と一緒に患者さんの問診や診察をし、外来を見学したり講義を受けたりしました。病棟実習では、国教がイスラム教なので病棟が男女別々であることに驚き、産科では分娩の数の多さに圧倒され、小児科では日本で殆ど見られない感染症であるデング熱が common disease であつたりと毎日が驚きと発見の連続でした。



マレーシア国際医療大学

また、原住民の住む村を訪問し、学生が主体となって健康診断を行うという貴重な体験をすることができました。現地の学生は、非常に勤勉かつ熱心で、一緒に勉強していてとてもよい刺激を受けましたし、週末には観光に連れて行ってもらったり、ホームステイを楽しんだりしました。

この実習を通して、医学の勉強や語学へのモチベーションが高まったのと同時に、日本の医療についても様々な側面から考えるようになり、あっという間に1ヶ月が過ぎてしまいました。この経験を忘れず、日々に生かしていきたいと思っております。

現在、学生海外派遣実習の費用の一部を神緑会の皆様から支援していただいております。私たちが今回有意義な経験ができたのも、神緑会の皆様のご支援があってこそであり、感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。



学生と指導教官とのひととき

## シンガポールでの実習を終えて

6回生 酒井 徹也

私は海外派遣プログラムの一環として本年度4月18日より3週間シンガポールでの病院実習に参加させていただきました。旅行以外で海外に滞在すること、海外の病院で実習することは初めてであり、日々困難にぶち当たりながらも、非常に濃く、忘れることができない有意義な経験を多く積むことができました。

私が主に実習したTang Tock Seng病院のCommunicable Disease Centerはシンガポール国内の感染症治療の中心的な病院であり、実習ではデング熱をはじめとする一般的な感染症治療からHIV・AIDS外来、入院患者の発熱のコンサルト、旅行医学外来などを経験しました。

大まかなスケジュールとしましては、午前中はレジデントの先生方と病棟回診を行い、午後は各種外来見学や他病棟のコンサルテーションラウンドに参加しました。新たに入院した患者さんの身体診察・病歴聴取を数多くさせていただきました。シンガポールは多民族国家であり4つの公用語があるため、英語をしゃべれない患者さんもいます。その際には看護師さんに通訳に入ってください、悪戦苦闘しながらの病歴聴取となりました。



指導教官と一緒に

またこの実習を通して日本の病院と大きく違うと感じた点は、病院で働きながらも勉強時間が確保されているということです。医師が病棟に行く時間は決まっており、お昼の11時～2時まではほぼ毎日レクチャーがありました。私が実習した期間は主にHIVについての講義が行われました。指導医の先生方からレジデントまで全員が参加し、議論することで、最新の知見を共有し治療に活かしていくとのことでした。この貴重な実習を行うにあたり、神緑会の皆様からご支援をいただいております。異国の地で勉強をする機会があるということは、英語を身につけることはもちろん、それ以上に多くの友人や国際感覚、広い視野を得られるという点で国内での実習には代えがたいものであると思います。

最後になりましたが、この大変充実した機会を提供してくださった、大学の関係者、神緑会の関係者の皆様に感謝します。



学生とのひととき

## 神緑会学内支部活性化活動について

山崎 峰夫 (S56年卒)

平成22年度より神緑会業務執行理事（副理事長）ならびに学内支部のお世話を務めさせていただいている山崎です。

先生方ご承知のように、このたび社団法人神緑会が新しく一般社団法人への移行手続きに入りました。これを機に、法人としての神緑会が卒業生と母校の繁栄・発展に向けてさらに支援できるよう活動できることが望まれています。

医師・研究者にとって、人的ネットワークの中での情報交換は重要です。特に専門分野以外の人々と交流を持てる場として、あるいは若い医師・研究者が節目となる時期に自身のキャリア形成に関してより高い立場からアドバイスを受けられるような場として、同窓会組織の意義があると思われます。また、各方面で広く活躍する卒業生の動向を知ることは学生のみならず、教職員にとっても大きな励みになります。そして、これらの活動は大学本体の組織がセンターとして活発に機能して初めて可能になることと考えられます。

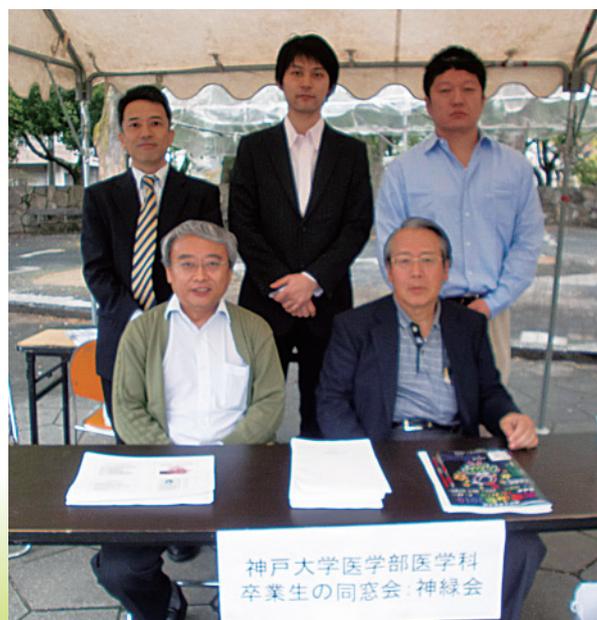
そこで、従来は必ずしも重視されていなかった「神緑会学内支部」の活性化への取り組みが本年度より始まっています。つまり、卒業生が母校とのつながりを保つことのできる窓口としての学内支部づくりを目標としています。

ところが、平成16年度より実施された卒後臨床研修制度により、神戸大学卒業生は全国に研修の場を求める傾向が顕著となっています。その結果、卒業生と母校とのつながりが希薄になりやすいという状況も生まれています。さらに、個人情報保護の社会的背景もあり、同じ環境で共に学んだ同級生ですら、かつての仲間がどのように活躍しているかも容易に知ることができません。そして、神緑会活動をお知らせしようとしても事務局ですら連絡先不明の卒業生が多いのが現状です。そこで、医学部在学中から積極的に神緑会の広報を行い、卒業後の連絡先を事務局に連絡していただけるような環境づくりを心掛け、卒業生名簿の充実からスタートしなければならないと考えています。そのためには、クラブ活動や、医学部の各学年代表を通じて神緑会活動への理解を求めています。

さらに、本年の医学部学園祭・大倉山祭には寄付支援を行っただけでなく、「神緑会ブース」を設置し、学生に直接同窓会活動をアピールしました（写真）。

12月には学内支部総会も予定しており、卒業生と母校のコミュニケーションネットワークの核となるような体制づくりを考えております。

先生方におかれましては、このような学内支部活性化に向けての試みにご理解とご支援をいただきたく存じます。



雨の中での同窓会活動をアピール

## 神緑会若手会員活動の活性化のために

力武 良行 (H4年卒)



神緑会活動全体を活性化するために必要なことに、神緑会活動へのこれまで以上の若手会員が参加することがあると思います。しかし、若手会員からは神緑会活動に期待する内容がほとんど無いとの指摘が多くあり、このために、若手会員の神緑会活動への積極的な参加はほとんどないのが現状です。この点については、今夏に開催された神緑会総会での討論会でも指摘しました。

この討論会およびその後の意見交換の場において、若手会員から神緑会活動に期待することとして、医療過誤に関連したトラブルが生じた際に、神緑会が若手医師の救済やオピニオンリーダー的な役割を期待しているとの意見があることを述べました。例えば、

兵庫県医師会には300名ほどの学内支部会員がおり、大学院生などの若手医師が多く含まれています。実際、医師賠償保険に加入するために会員となっていることから、すべてが神緑会会員という訳ではありませんが、少なくとも学内の若手医師が具体的に必要としている事として、いつ自分の身に降り掛かって来るかもしれない医療過誤に関連したトラブルに対する組織的なサポートを求めている実態を垣間見ることができると思います。また、これに関連して、討論会では開業医の会員の先生からもこれまで医師会や学会から団体加入している医師賠償保険を神緑会が窓口となることができないかとのご意見もありました。

基本的に若手会員は神緑会に現実的な利益や具体的なメリットを求めています。したがって、一つの解決策として、医療過誤に限らず、神戸市や兵庫県、その近隣の医療圏における具体的な問題点について、医師会や病院、診療科の枠を超えて真剣に議論してその解決策を見出していく場を神緑会が提供して下さり、その活動の報告がニュースレターなどを通じて会員に向けて発信されれば、神緑会活動への若手会員の関心も高まり、会合への参加者も増えるのではないのでしょうか。是非とも引き続き、多くの会員の先生方のお知恵を拝借して、若手会員が積極的に参加して神緑会がより活性化されるように努力していきたいと思えます。

## 医学分館（図書館）からの卒業生への貸し出しサービスのご紹介

既にご存知の方もおありと思いますが、従来、閲覧やコピーのみで貸し出しが出来なかった卒業生への貸出サービスが認められました。

### ■利用できる方

神戸大学、又は神戸大学の前身となる大学等を卒業、修了、単位修得退学された方  
本人が直接来館して貸し出し・返却手続きができる方

### ■貸出サービスの範囲

#### 貸出条件

貸出できる図書は図書館に配架されている図書

研究室備え付け図書、貴重図書、参考図書及び雑誌は対象外です。

貸出冊数：6冊以内 貸出期間：3週間以内

貸出期間の延長ができます（他の利用者の予約が無く、返却期限内であること）

他分館も同一条件で利用できますが、直接来館して手続きをしていただくことが条件です。

#### 注意事項

返却期限に遅れた場合は遅れた日数分の貸出停止になります。

本学の学習・教育・研究上の必要が生じたときは、貸出期限内でも返却していただくことがあります。

図書を汚損・紛失された時は同一の図書を弁済していただきます。



## ■申し込み方法

### 利用登録と有効期限

「利用証交付申込書」による利用登録が必要です。申込書は図書館カウンターにあります。  
有効期限は当該年度内です。有効期限が切れた時は更新手続きが必要です。

### 必要書類

本人及び現住所を確認できる身分証明書（運転免許証、パスポートなど）。  
卒業証書（コピー可）等、又は卒業証明書等（卒業年次によって不要のことがありますので、予めお問い合わせいただくことをお勧めします）。

### 申し込み窓口

初めての利用登録は、出身学部等に対応した図書館で手続きして下さい。  
更新手続きは、本人及び現住所を確認できる身分証明書の提示で、いずれの図書館でも手続きしていただけます。即日発行します。

受付時間：月～金 9：00～17：00

医学分館 〒650-0017 神戸市中央区楠町7-5-1

TEL 078-382-5310 メールアドレス mlibsvc@lib.kobe-u.ac.jp



## 平成8年卒業生(H8)同窓会のお知らせ

### 平成8年卒業（および平成2年入学）のみなさまへ

卒後15周年を記念して同窓会を開催します。  
みなさま花の「アラフォー世代」としてご活躍のことと思われま

す。卒後15年を振り返り、未来の15年を語り合  
ましよう！

多数のご参加をお待ちしております。

日 時：平成23年2月12日（土）

18時30分開始

場 所：ホテルオークラ神戸

詳細につきましては、H8同窓会メーリング  
リストを通じてご連絡いたします。

メーリングリスト未加入の同窓生は同窓会実  
行委員に連絡をお願いします。

H8同窓会実行委員

矢野 嘉彦 中村 聡明 大守 誠

小林（里見）成美 森信（玉屋）早穂子

華山 博美

メールアドレス（代表：中村）

satoaki@nakamura.pro

## 編集後記



このニュースレターは神緑会員相互の情報提供、情報交換の場と考えております。些細なことでも結構ですので、他の会員の皆さんに提供したい情報、お知らせ等ございましたらニュースレター編集委員会（E-mail shinryok@med.kobe-u.ac.jp）までご連絡ください。また、当ニュースレターに対するご意見、ご要望などもご連絡いただけるよう併せてお願い申し上げます。

### 編集委員：

久野克也	昭和48年卒
山崎峰夫	昭和56年卒
三浦靖史	平成元年卒
吉田 優	平成4年卒
小林和幸	平成9年卒
篠原正和	平成10年卒